

# 令和3年第6回東大和市議会厚生文教委員会記録

令和3年11月2日（火曜日）

---

## 出席委員（7名）

|     |     |     |   |      |    |     |   |
|-----|-----|-----|---|------|----|-----|---|
| 委員長 | 木戸岡 | 秀彦  | 君 | 副委員長 | 実川 | 圭子  | 君 |
| 委員  | 上林  | 真佐恵 | 君 | 委員   | 中村 | 庄一郎 | 君 |
| 委員  | 根岸  | 聡彦  | 君 | 委員   | 東口 | 正美  | 君 |
| 委員  | 中野  | 志乃夫 | 君 |      |    |     |   |

## 欠席委員（なし）

## 委員外議員（なし）

## 議会事務局職員（5名）

|      |    |    |   |       |    |     |   |
|------|----|----|---|-------|----|-----|---|
| 事務局長 | 鈴木 | 尚  | 君 | 事務局次長 | 並木 | 俊則  | 君 |
| 議事係長 | 吉岡 | 繁樹 | 君 | 主任    | 関口 | 百合子 | 君 |
| 主任   | 高石 | 健太 | 君 |       |    |     |   |

## 出席説明員（なし）

## 会議に付した案件

### （1）所管事務調査

社会的孤立におけるひきこもり支援の取り組みについて

午前 9時30分 開議

○委員長（木戸岡秀彦君） ただいまから令和3年第6回東大和市議会厚生文教委員会を開会いたします。

新型コロナウイルス感染防止のため、3密を避け、広い空間を取る必要がございますことから、本日もこの全員協議会室において御協議いただきたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

○委員長（木戸岡秀彦君） 所管事務調査、社会的孤立におけるひきこもり支援の取り組みについて、本件を議題に供します。

前回の委員会において本件を所管事務調査に決定いたしましたので、本日は、今後具体的にどのような形で調査を進めていくか御協議をいただきたく存じます。

事前に所管事務調査の進め方について、正副委員長案を送付させていただきましたけれども、改めて私のほうから説明をさせていただきたいと思います。

皆さん、お手元のほうに厚生文教委員会所管事務調査計画（案）ということでお渡ししてありますけれども、前回、社会的孤立におけるひきこもり支援の取り組みについてということで進めることになりました。

流れ的に、現段階で東大和市としては、ひきこもりの窓口として公にしているのは、一応、青少年課と健康課ですね、健康課がひきこもりの窓口ということで、広報はしてあります。その中で、昨年、2020年の8月に基礎自治体におけるひきこもりの支援に関する調査研究報告書というのがございまして、皆様に事務局のほうから別に分厚い冊子でお渡しをしてありますけれども、これに対して東大和市としても、ひきこもり支援については、支援について取組は現状行っていませんけれども回答をしておりますので、それについて担当部局より説明を求めて、12月の定例会ですね——の委員会で求めていきたいと思います。

現段階で、一応福祉部のほうでまとめて行う、今予定になっております。

この11月、12月の期間に、ひきこもりに関する情報共有ということで、皆さんのお手元にA4でポストコロナ新しい社会を創るということで、これ全国ひきこもり家族会での毎年行っている講演会なんですけども、こちらが一応勉強ということで、ぜひ参加をいただければなと思って皆さんに提供させていただきました。

もう一つ資料として、豊島ですね。豊島区ではひきこもり支援においてはかなり進んでおりますので、これに関しても、広報に関して取組のことが載っておりますので、資料提供をさせていただきました。その中で、勉強会も含めてこの中で行っていきたいなと考えております。詳細については、また後ほどお話をさせていただきたいと思います。

続いて、視察に関してなんですけども、コロナ禍の状況で、全国各自治体でも現在休止をしているとか、受け入れてる、様々あると思うんですけども、ひきこもりに関して先進自治体の視察を現状で行いたいとは思ってるんですけども、この中では豊島区、江戸川区、国立市、日野市、この4市がかなり取組熱心で参考になるということで、一応提議をさせていただきました。豊島区に関しては、ひきこもり支援の協議会がこの7月にも発足して、かなり具体的な取組を行っております。江戸川区に関しては、全国でも大がかりな実態調査もしておりますので、そういった取組も確認したいなと思って、こちらに入れさせていただきました。

これに関しては、視察ができるのかどうか、あとまた視察場所、何か所できるのかどうか、当然時間とか様々、日程等もありますので、これに関してはまた自治体のほうに連携を取りながら進めていきたいなと、今思っております。これに関しては一応案ですので、よろしく願いしたいと思います。

次、視察に関する意見交換ができれば一番いいんですけども、東大和市として生かせるような意見交換を

行っていくと。

あと、宿泊を伴う視察ですけれども、現状なかなか難しいのかなっていう部分はあるんですけども、来年になって各自治体ともどういう状況になってくるか分かりませんが、一応先進的に取り組んでるということで、これ案として、岡山県の総社市を入れさせていただきました。これに関しては、多摩と東京都の視察もありますので、場合によっては近隣市に切り替えてもいいんじゃないかなとは思っております。

それと、その後、ここにも8月ということで、これ予定で書いてあるんですけども、東大和市の状況ということで、今日は社協だよりが出てると思うんですけども、実は東大和市でもようやくひきこもりの家族会が発足をしました。つながりという名称で発足をしまして、今月の29日に家族会の会合等も持たれています。その中で、やっぱり立ち上げの状況とか現状、市として把握してる部分等もお聞きしたいなと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

あとは、第3回定例会、第4回定例会で調査報告をしっかりとまとめて進めていきたいなと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

一応、今言いました家族会との、社協との件ですけれども、これに関しては福祉部のほうで連携を取っておりますので、福祉部のほうで状況を確認したいと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

一応、正副委員長の案については説明は以上となりますけれども、この説明に関して、そのほかに御意見等がございましたら発言をお願いしたいと思います。何かございますでしょうか。

○委員（中野志乃夫君） うちの市のほうで対応してる課が青少年課と健康課だけなんですかね。障害福祉課のほうでは対応してなかったのかなと思ってたんです。対応してるものがあつたような気もしたけど、その辺はちょっとどういうあれだったんでしょうかね。

○委員長（木戸岡秀彦君） 障害福祉に関しては、そえると連携を取っておりまして、当然相談で来た場合に、そえるに引き継いでお話をしていくっていう、そういう流れにもなってます。

市としての、取りあえず全体観としての窓口ということで、青少年課と健康課になっただけで、それ以外でも相談等は受けてると伺ってます。

あとそのほかに御意見ございますでしょうか。

○委員（中村庄一郎君） 今、豊島区や何かの資料も頂いてますけど、例えばこういうところに視察に行くみたいなことは考えていらっしゃるということなのかな。

○委員長（木戸岡秀彦君） はい。

○委員（中村庄一郎君） どこか入ってるのかな。ここに入ってるんだっけ。

○委員長（木戸岡秀彦君） はい。

○委員（中村庄一郎君） 来年なのね。

○委員長（木戸岡秀彦君） そう、年明けを考えております。

○委員（中村庄一郎君） 年明けってことですよ。だから、来年度ってことだね。今年度はない。

○委員長（木戸岡秀彦君） 今年度で。今年度は3月までです。

○委員（中村庄一郎君） 3月まででしょ。これ4月じゃないの、豊島区って。

○委員長（木戸岡秀彦君） 令和4年1月。

○委員（中村庄一郎君） 4月じゃなくて、ごめんなさい、僕が勘違いしました。1月ね。分かりました。今年度行けるってことですね。

じゃあ、それは向こうへ視察に行く予定で考えていらっしゃるということでいいんですね。

○委員長（木戸岡秀彦君） はい、考えて、今現段階ではおります。

○委員（中村庄一郎君） 現段階ではね。あとは向こうの調整ってことで、あれですね。ごめんなさい、勘違いです。ありがとうございます。

○議会事務局長（鈴木 尚君） 今の視察に関して、少し補足の説明をさせていただきます。

先ほど委員長のほうから、この資料に載ってますいろんな自治体、こちらが先進市で、もう既に取組をされてる自治体ということで、正副委員長で注目をされて、候補地として挙げていただいています。あとは、現コロナ禍、少し感染状況が回復してまいりまして、相手方の自治体がどのぐらい対応していただけるかというのが、その自治体それぞれで今違ってきてまして、ホームページ等で確認いたしましても、自治体によってはまだ視察無理ですよって書かれたままのともございますので、この候補地として挙げていた自治体と交渉して可能であればということで、この時期に行けたらというのが正副委員長案でございますので、その辺もうまく交渉が成立すれば、この時期に行けるようになりますし、あるいは年度明けてから可能になれば、そこで行くというタイミングも出てくる可能性はございますので、御承知おきください。

以上です。

○委員長（木戸岡秀彦君） ありがとうございます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

○委員（上林真佐恵君） 全体の流れで確認なんですけど、まず、この1番、次の定例会のときにちょっと担当部局にも来ていただいて、今の当市の状況なんかもざっくり流れとかを確認して、どういう支援があるのかみたいなことを確認した上で、他市にも可能なら見に行かせていただいて、最終的に家族会の様子なんかも聞いてっていう、そういう流れですよ。その全体の流れを、そういう理解で大丈夫ですよ。

○委員長（木戸岡秀彦君） はい、そのように進めていきたいと考えております。

○委員（上林真佐恵君） まとめていただいて、ありがとうございます。このとおりでよいと思います。

○委員長（木戸岡秀彦君） 一番問題になるのは、視察ができるかどうかという部分があるんですけども。

○委員（根岸聡彦君） 計画、ありがとうございます。正副のほうで、ここまでの流れをつくるだけでも非常に大変だったと思います。

流れに関してはおおむね了解をいたしているところであります。特にやはり視察については、先ほど局長のほうからも言われたとおり、相手があつてのことですので、そこはコロナの状況を見ながらということになるのかと思いますので、臨機応変な対応をしていけたらというふうに思います。

また、過去においていろんな会議等で、やはり書面会議ということも開催されてますので、各自治体に対しては、視察がかなわないのであれば、何か資料を頂けませんかというような形で、その資料をまた頂いた上で、みんなで検討するというのもありなのかなというふうに考えています。

いずれにしても、コロナがこのまま本当に収束してくれるのかどうかというところにかかっていると思いますので、そこは情勢を見ながら対応していくことになるのかなと思います。引き続き正副委員長には御苦勞をおかけすると思いますが、よろしくお願いします。

○委員長（木戸岡秀彦君） ほかに御意見ございますでしょうか。

○委員（東口正美君） ありがとうございます。

今、根岸委員の話聞いて、ああそうだなって思ったのが、この基礎自治体の調査研究報告書も頂きました

ので、これをちょっともう一回熟読させていただいて、視察に行けない場合は、この先進自治体に書面での質問等もできるのかなというふうにしたので、何々だからできないということもたくさんありますけど、できることが何なのかを考えながら進めていければいいかなと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（木戸岡秀彦君） よろしいですか。

視察ができた場合は、直接行っていろいろ話を聞くことはできますけども、できなかった場合にどのように進めていっていかうのも、それに関しても視察の状況によって進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いをしたいと思っております。

○委員（実川圭子君） 次回、説明もいただけるこの報告書なんですけど、本当に非常に、割と今年の3月に出たもので、去年の調査なので、実態に合ってるのかなと思っておりますので、非常に参考になるかなと思っております。

あとそのほかに、ひきこもりに関しては、NPOですか、一般社団法人などで活動してる方もいらっしゃいますので、そういった実践をしている方の話も聞けたらいいなということを委員長とも話しているんですが、なかなか委員会として講師を呼んで研修をするというような予算も取っていないということなので、それがどのように実現できるか分かりませんが、もしそういう機会ができれば、また皆さんと御相談させていただきたいなと思っております。

○委員（東口正美君） 散文的ですみません。

数年前に公運審をさせていただいたときに、蔵敷公民館がこのひきこもりの方のための、講演会じゃなくて、取組をされてた、非常に御苦労されながら、公民館の職員の方が頑張ってくださっていたので、今回担当課はここだけになるかもしれないんですけども、もしかするとその蔵敷公民館と社会教育のほうとかでも取り組んでらっしゃるところが、もしうちの市内もあるかもしれないので、ちょっとその辺もう一重確認してもらいながら形跡をたどれて、どんなことができるかもう一度研究したらいいかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長（木戸岡秀彦君） 今、東口正美委員のほうからお話がありましたように、蔵敷公民館では数年前に3回に分けてひきこもりについてのテーマ、何人か出席をしたということも聞いております。

ひきこもりに関しては分野がかなり広がりますので、そういった部分では、あまり細かくし過ぎて、担当部局ってのは難しい部分もありますので、しっかりちょっと確認をした上で進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。

先ほど、実川委員のほうからも講師っていうお話を……。実はそういったNPOとか、そういった専門的になってる方も私もお会いをして、講師をしていただけるっていうことは確認はできてるんですけども、現実問題、委員会としてできるのかどうかで、以前、厚生文教委員会ではなくて、議員の有志っていうことで勉強会も開いたっていう経緯もありますので、またこれに関しては相談をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いをしたいと思っております。

そのほかに。

○委員（根岸聡彦君） 先ほどの実川委員の発言で、ちょっと参考になるなと思ったんですけども、視察先、豊島区、江戸川区、国立市、日野市と4つ記載されておりますが、当然視察というのは、自治体に対する視察だけではないと思っておりますので、自治体の各市役所、区役所のほうで視察を受入れができないというのであれば、当然こういった自治体の中には、積極的に活動されてる団体もあるかと思っております。そういった団体の方々等のお話を伺うことができるのかどうかといったところも、視察の一部として御検討いただければなというふうに

思います。

○委員長（木戸岡秀彦君）　そうですね。ひきこもりに関しては、そういった自治体に関連して様々な分野の支援団体等もございますので。

実は、今回のこの調査報告書ですけれども、これに関しては39の自治体と21の支援団体がこのアンケートの調査にも入っておりますので、そういった部分でもかなり……。ちょっと広範囲になってくるとは思いますけども、確認をしたいと思います。

あとほかにございませんでしょうか。

○議会事務局長（鈴木 尚君）　先ほど来、皆さんの中で先進自治体の話も出ておりますけども、実際このひきこもり支援という事業自体が、東大和でいいますと、直接市が持つてる事業ではないわけですね。御存じのように、この社協だよりも出てますけど、ここで家族会が発足したというような状況。ですから、先ほども根岸委員から出ましたように、外部の団体のほうでの取組というのが、かなりあちこちの自治体で中心に行われてて、あとは自治体が独自に支援事業をやっているところっていうと、割合にしてどのぐらいでしょうね、100%市があるいは区が直接事業を持つてるっていうケースじゃないところが多そうなので、その辺の扱って非常に難しく、視察に伺う場合も、基本的にはその自治体、行政視察ですから自治体のほうに伺って、関連事業として、そこにその外部団体も来ていただいて話を聞けるというケースは出てくると思っております。

それと、次の委員会は、次の第4回定例会の中での委員会になると思っておりますけど、そこで担当部署の説明というのも、この調査報告書に関する説明あるいは質疑は答弁してもらえんと思うんですが、この報告書自体は自治調査会が作ったもの、それから先ほど言いましたように、市が独自で支援事業を持つてなくて、社協のほうですから、その辺との関わりという点での質疑ということが中心になってしまうかと思っておりますので、ちょっとその辺の扱いがしづらいところもあるんですが、その辺ちょっと御承知おきの上で対応をお願いしたいと思っております。よろしく願います。

○委員長（木戸岡秀彦君）　今、事務局長のほうからお話があったように、この自治体の報告書、中心ですけども、市としては、今後ひきこもりについても様々来年度検討していくっていうことも聞いておりますので、そういった意味では、多少幅も広げてもいいんじゃないかなと思っておりますので、よろしく願いをしたいと思っております。

ほかに御意見ありますでしょうか。

よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○委員長（木戸岡秀彦君）　それでは、所管事務調査の進め方につきましては、ただいま御協議いただきましたとおり進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

---

○委員長（木戸岡秀彦君）　これをもって令和3年第6回東大和市議会厚生文教委員会を散会いたします。

午前 9時50分 散会

東大和市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

委 員 長 木 戸 岡 秀 彦